

2023年8月5日(土)

真夏の朗読会

こわ〜い怪談と不思議なファンタジーのお話

開催報告

夏恒例の朗読会を開催しました。今回は、ちょっぴり怖い怪談話だけでなく、不思議なファンタジーのお話もご用意しました。朗読していただいたのは、視覚障害者を中心としたトークパフォーマンス集団「こうばこの会」の皆さんです。

前半は、かわいいゆうれいのお話、絵本『ゆうれいのたまご』の読み聞かせからスタートしました。

読み聞かせが終わると、部屋の照明が消えて会場は真っ暗に。チリーン チリーンと鈴の音が響くと、「かごめかごめ」の歌声が…。歌声はひとり、またひとりと不気味な輪唱となって会場に響き渡りました。歌声が静まると、ポツンとスタンドの明かりが灯されて、怖いお話の始まりです。

「へっついゆうれい」、「夜のプール」、そして「みいつけた」。

「みいつけた」では、この後怖いことが起こる場面で、思わず耳をふさぐ子どもの姿も。そして最後の怪談「呪いのエレベーター」は、お話の結末の恐怖で、子どもも大人も背筋が凍り付いてしまいました。

前半が終わり休憩時間に。出入口の扉を開けて明かりを付けましたが、室内はしばらくシーンと静まり返ったままでした。



休憩時間中に会場の模様替えをしました。前半に明かりを灯したライトスタンドに、綺麗な帽子やレースのスカーフで飾り付けをして、壁にはたくさんのヒツジのイラストを貼りました。明るく変化した会場で、後半が開始されました。



お話は、嘘しか言えない王女と真実しか話せない王子の切ないロマンス「嘘の女王」と、朗読者2名による眠れない男の子と眠らせたいヒツジの朗読劇「ネムリヒツジを呼ぶ呪文」のファンタジーな作品です。特に「ネムリヒツジを呼ぶ呪文」は、男の子とヒツジのテンポのよい掛け合いが楽しく、ユーモアあふれるヒツジの大きな鳴き声が絶妙でした。会場内は大きな笑い声に包まれましたが、お話の最後にとっても怖い結末が待っていました。

恐怖あり 笑いありの怪談とファンタジーの朗読会、参加者の皆様に楽しんでいただくことができました。

待ち時間や休憩時間に見ていただけるよう準備した貸出用資料。
『怪談絵本』シリーズが大人気。



こうばこの会の皆さん、熱演ありがとうございました。